平成25年に向けての安全啓蒙
及びボランティア内容説明会

まちなか里山公園づくりの会

平成25年2月16日（土）

本日の目次

1. 動力機器の安全啓発について
2. 平成25年の作業目標について
3. その他

念のため！
この「KY」は「空気が読めない」ではありませんよ！**「危険予知」**ですよ。なんでも略す日本人の悪い癖ですね。工事の監督員していたので分るのですが･･一般的には、「空気が･･･」でしょうね

１．動力機器の安全啓発について

はじめに

「いまさら」と思う方も、「俺は知っている・出来ている」との方も、今一度当会の状況を確認してください。当会は林業等の豊富な作業経験のある方は皆無で、**素人がボランティア**で行っている作業です。

作業も、個人で行っている範囲では周囲を考えずに作業出来ますが、複数で作業している場合は周囲への配慮又は、周囲からの危険に対して自分自身の危険回避も必要となります。

過去２年間は大きな事故も終えることが出来ましたが、**ヒヤリ**としたことはあった（見た）事があると思います。特に慣れたころが一番危ないものです。 今一度、安全について再確認を行い、安全で楽しい作業を行いたいと思います。

今回は、メンバー内で知っている情報を共有する勉強会との位置づけで、必ずしも安全管理等の専門家が行う講習とは異なりますので予めご了承下さい。

なお、動力機器を使用されない方も、動力機器の周辺に近づく際は各々の機器の特性を理解して頂き安全確保に役立ててください。

※チェンソー、刈払機はケガの発生率が非常に高いです。加えて、キズロが刃物でえぐられる為に治療に時間が係ります。
便利な機械でありますが、**最も危険な道具の一つ**であることも認識してください。

安全装備品の紹介
（主としてチェンソー作業）

切断防止ジャケット

切断防止ブーツ
安全靴では、甲などを保護できない

ヘルメット
はねた枝、切り屑等から顔面を守る

切断防止手袋

切断防止用のチャプス
又はズボン

安全装備品の紹介
（主として刈払作業）

切断防止ジャケット

切断防止ブーツ
安全靴では、甲などを保護できない

ヘルメット又は顔面保護具
飛散物から顔面を守る

切断防止手袋

切断防止用のズボン又はすね当て

一般的な作業時の装備の基本

※動力を使う農機具（刈払機、チェンソー）は必ず、体を保護することを忘れずに！。
チップソー、小石の破片が原因で重大な事故が身近に発生しています。

実際のチェンソー作業時の装備（参考として）

頭部保護のヘルメット

ヘルメットの下は、手ぬぐい

革手袋
（切断防止を有するもの）

切断防止ズボン

チェンソー用ブーツ

ナタ
刃渡り15cm程度の両刃
枝払等に使用、ナイフの代用

剪定ばさみ
ロープを切ったり、細い枝を切るなど

小物入れ
ハンマー・小型のこぎり・クサビ・メジャー・チョーク

うるさいな・・。面倒なんだどな・・。でも、最近〇〇が、ひどいケガしたな、あれみると装備しないと

体が丈夫でも、チェンソーには勝てないでしょう。適切な装備してくださいね

チェンソーの分解掃除　その１

基本的にチェンソーのメンテナンスは、掃除と目立が肝心。掃除は、機体を簡単に分解（バーを外す）し、ゴミを取り取り除く。

きれいにすることで、チェーンオイルが潤滑が容易になり、発熱によるトラブルが減少する等の利点があります。

この強力ピンセット（ホーザン製）、使用して２０年が経過しますがいまだ問題無。適時先端を研いでいますが

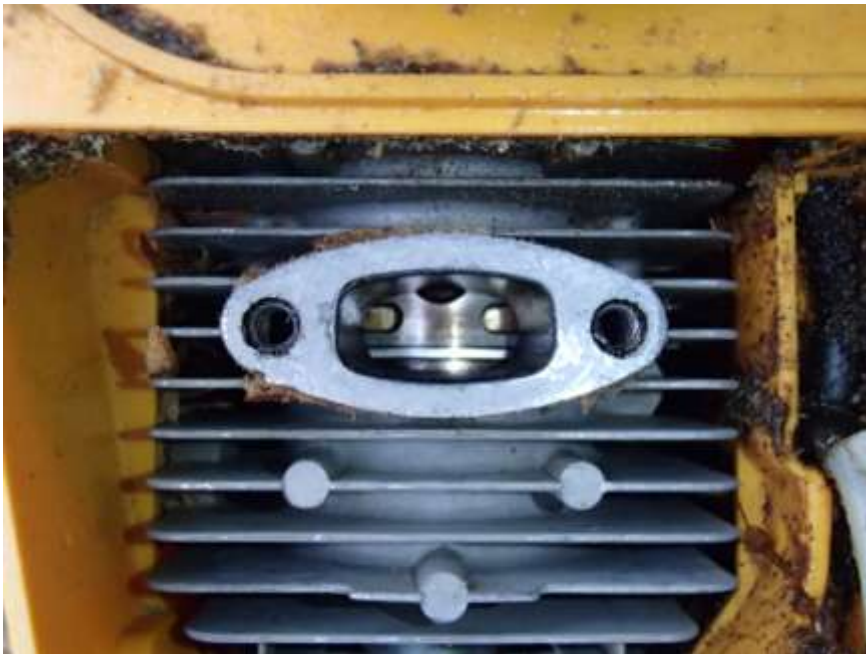
使用する工具は、しっかりした工具を使って下さい。外国の高級品とは言いませんが国産の出来ればKCT、無ければVESSEL程度はお願いします。ナットの頭が丸くなる可能性が高くなります。

昔、試作品工場の職人が最低でもKCTを使う。もっとも、支給品は使わず自分で気に入った工具を買う人が多かったような気がします。

チェンソーの分解掃除　その２

時間的にすこし余裕がある際に行う整備です。
エアークリーナーの掃除です、結構重要ですが見落とすことが多いですが、エンジン付の機体は必ず行って下さい。頻度は、作業内容と作業場所によりことなりますのでご注意を。

この機体は、キャブの吸込口の真上がスポンジなので、取り外す際はチョークで吸込口をふさぎます。（多少は効果あり）

チェンソーの分解掃除　その3

時間的に余裕がある際に行う整備です。
　マフラーに付着したカーボン等を目視で確認して、付着が多いと判断した場合は、取り除きます。
　この時、ピストンに異物が入らないよう注意しながら、ピストンの状態を確認。
　マフラーに異物が多く溜まると、パワーが出ません。

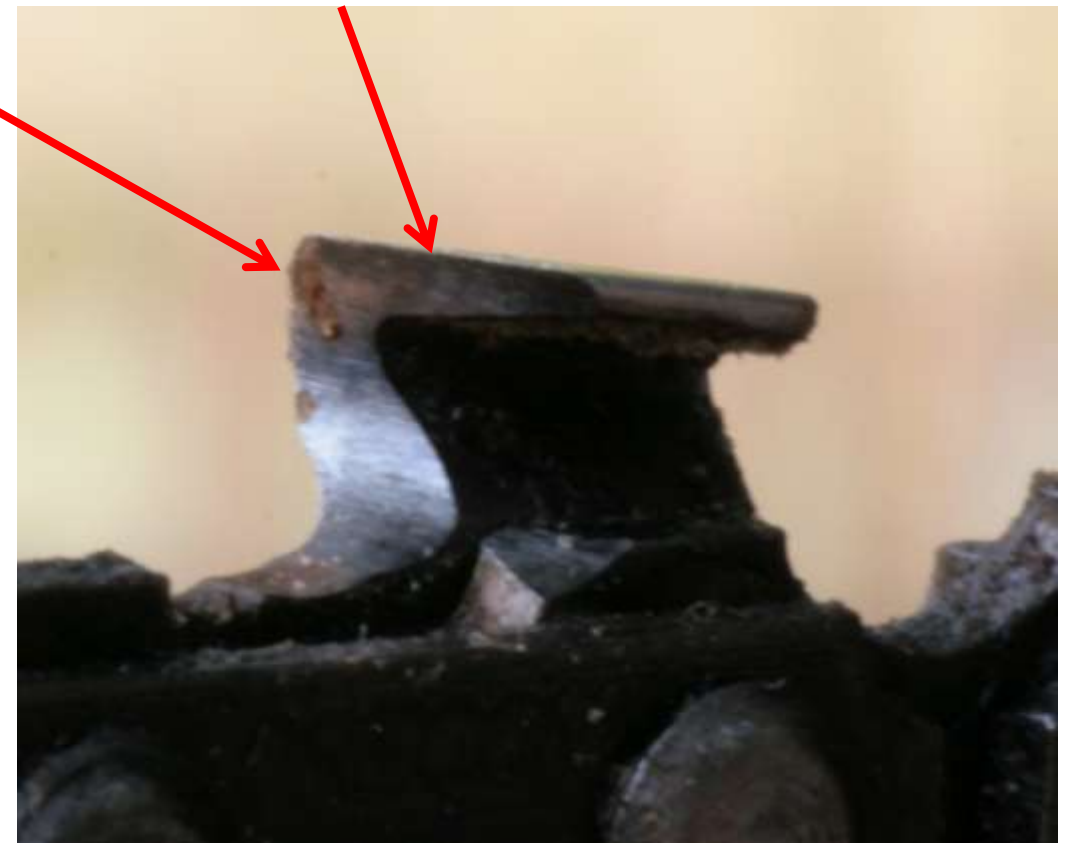
チェンソーの目立て　その１

　チェンソーは、ノコギリであり、刃物であると考えることができます。そのソーチェンは秒速２０ｍものスピードで回転しているため、目立て不良でも、ある程度切れてしまうという、一見良さそうで悪い面を持っています。
　例えば、同じ太さの木を切った場合、切れる刃は１０秒、切れない刃は２０秒かかったとすると、わずか１０秒の差でありますが、１日の作業全体を考えると大きな作業ロスとなります。
　ということで、目立ては大事ですね。実際に自分で体験してみることが大事です

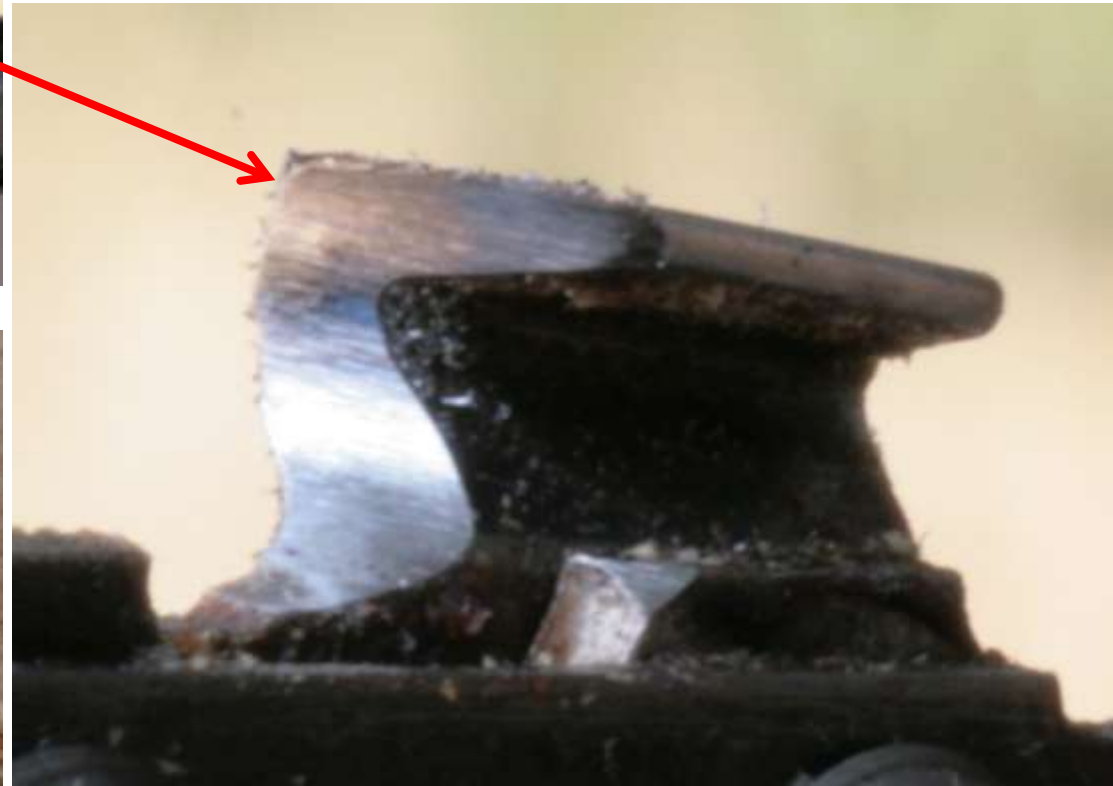
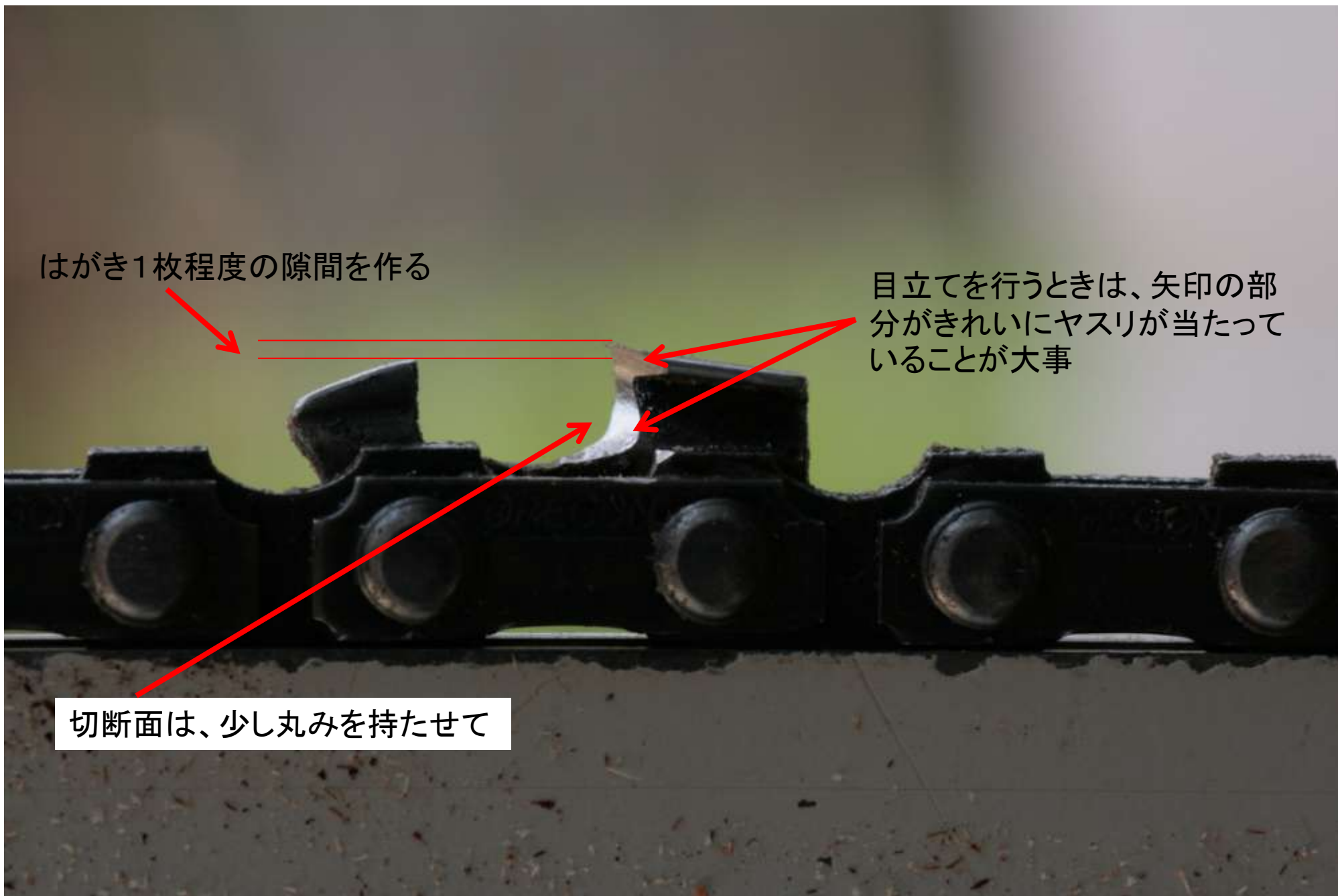
1　丸ヤスリ
2　平ヤスリ
3　デプスゲージジョインター
4　ヤスリホルダー、ヤスリハンドル
5　マジック（写真なし）
6　目立てガイド（必要であれば）
7　ぼろ切れ（ティッシュなどでも可）
8　その他、ガイドバーを固定するバイスなどもあれば便利

チェンソーの目立て　その2

刃の部分が少し白く見えます。この状態でも切れますが少々
切れ味が劣ります。

ここの白い部分に注目。しかり目立が出来て
いると目視出来ない

少々切れ味が鈍ってます。
燃料2回程度を消費した状態だったような。

チェンソーの目立て　その3

先ほどの状態から、さらに目立てを行うとこのような状態となり、先端の白い部分が目視出来なくなります。（少々、やすりの粉が付着していますけど）。この状態で木を切ると切カスが大きく切れていることがわかります。

切りくずが長く、きれいに切れています。この状態だと、チェンソーの自重で切れます

チェンソーの目立て　その4

チェンソーの目立て　その５

チェンソーの目立ては、角度が重要となります。となると、角度を一定保つ必要がありますので、写真のように治具を用いて機体を安定させます。

しかし、機体を安定してもチェンーン自身がたわむので、確実の保持しながらの作業となりますので、革の手袋を忘れずに

時間と電気がある場合は、専用電動工具で目立てを行います。山中で行う目立てでは、角度がずれてきて修正が困難になるために、定期的に角度をきれいに出すようにしています。

※熟練者は、山中の作業で十分に精度が出ると聞きますが素人では・・・・無理です。

刈払機の操作（ナイロンコード）

汚れ防止エプロンは刈払用に市販されています。写真は園芸用エプロンで代用しています。しかし、専用の丈の長いエプロンが宜しいかと

ヘッドの左側を使用した場合は、飛散物は自分に飛んできます。一方で、飛散物を自分自身でブロックするので、他への迷惑は少ないかも・・・。

特に飛散物で汚れる部分

飛散物
左側使用

「くらげ君」という名称で販売されている飛散防止器具もあります。

刈払機（ナイロンコード）の場合の注意事項

飛散する小石、草等が大変に多いので、チップソーの作業より危険な場合があります。汚れ防止と体の保護を兼ねて丈夫なエプロンとゴム長の安全靴でほとんどOKです。（写真は、短い安全靴ですが・・・・）

ナイロンコードを使い際には、自身への飛散と前方への飛散がありますので、状況に応じてヘッドの傾きを調整してください。

※背負い式で、左側から出して使用すると飛散物の多くは後ろへ飛びます。（肩掛け式の刈払機も同様です）。

※住宅密集地等の第三者への影響が想定される場合は、飛散物を最小限とする為に適切な飛散防止器具等を使用し飛散物による事故を防止してください。作業者が適切な装備を行えば、作業者も飛散防止となります。

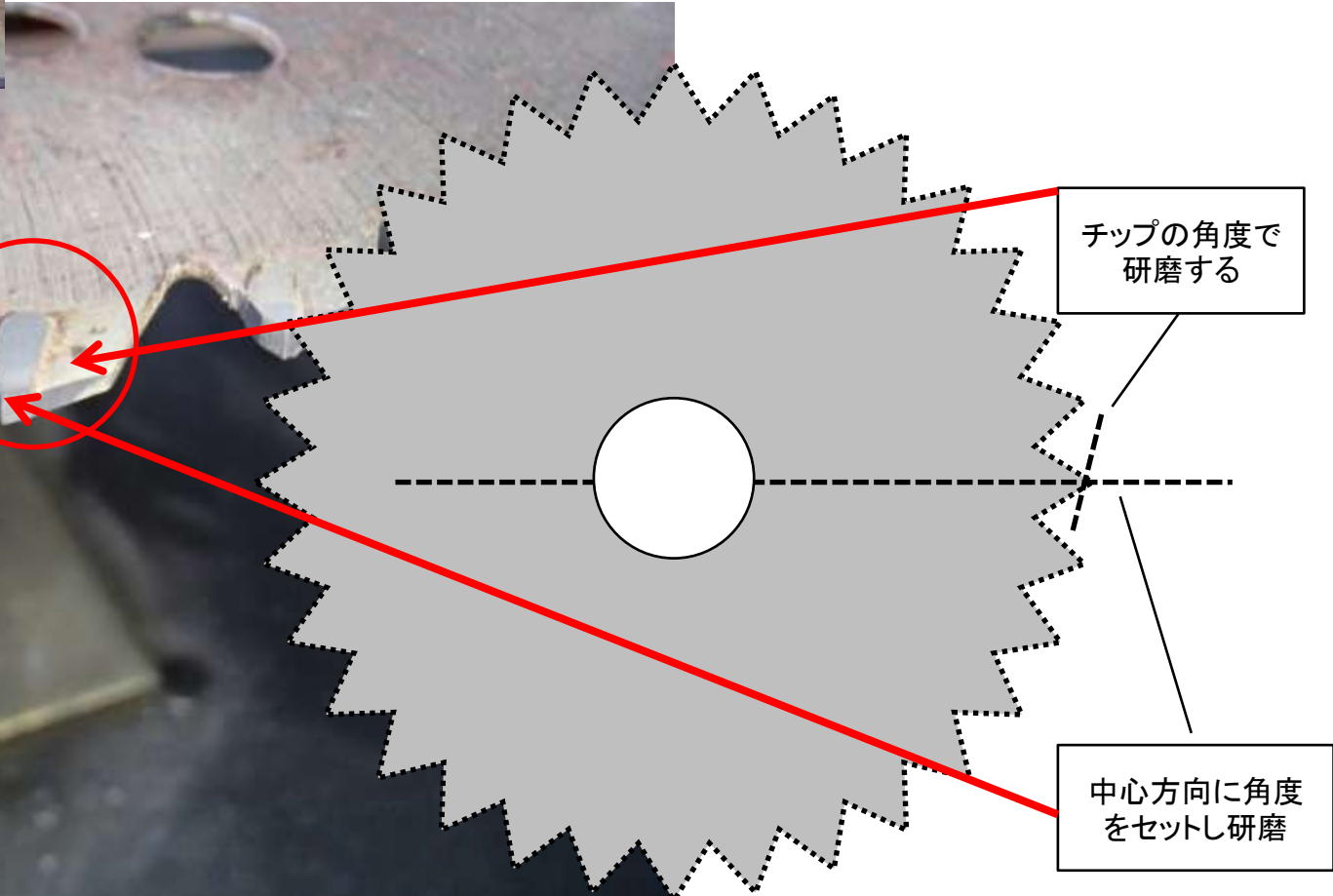
チップソーの目立て

・目立てを行う場合

磨耗したチップソー等に、ヤスリ又はグラインダーを用いて目立てを行います。

ホームセンター等で売られている格安の刃（1枚1,000円以下の安いチップソー）では、目立てが必要なほど磨耗する前に埋め込まれたチップが外れる事が多いので必要性が少ないかも。→外れるチップの方が問題。どこへ飛んでいくのでしょうか？？。チップが外れると大変危険ですので、**JIS規格又はメーカー純正品**を使ってください。

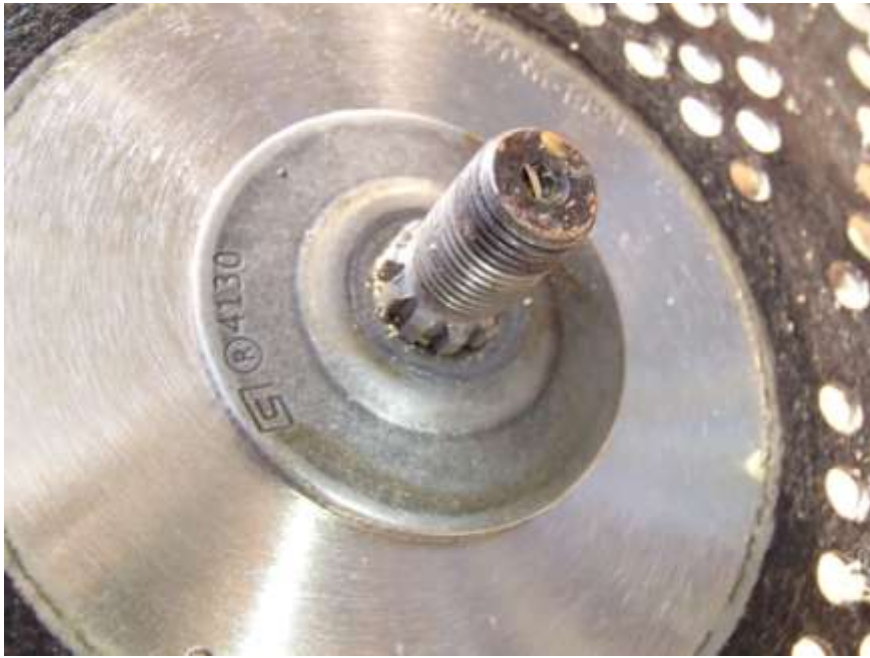
また、最近ホームセンター等で特異形状のチップソーが販売されていますが、研磨は相当難しいと思います。研磨を考えるのであれば標準的な形状をお勧めします。

それほど切れ味に変化があるとは思えませんが・・・・・・・。それより、切る対象に合わせた機体及び刃の選択が重要かと・・・

ギアケースのグリスアップ　その1

・グリスアップの頻度
取扱説明書によると、 25時間毎。
単純計算で1日5時間作業すると一週間に1回となるが、私の場合シーズンに2～3回程度。ギアケースを点検しグリスが少ないようであれば補充

・使用グリスの種類
　純正品の刈払機用グリス→購入が煩雑
　汎用品ではウレアグリス。又は、耐熱リチウムグリス。→ホームセンターで調達可能

・注意
　刈払機のグリスアップは、実施後に注油孔ボルトが緩みやすく、外れる場合があります。 また、緩みを警戒して注油孔ボルトを締めすぎるとねじ山をなめることがあります。
　使用量が少ない場合には、グリスアップを行はないほうが無難な箇所です。

ギアケースのグリスアップ　その２

ギアケースも、適時分解して掃除を行って下さい。また、背負式の刈払機をお使いの場合は、動力伝達用のワイヤー部分にもグリスアップを忘れずに！！

刈払機のスロットルレバーが変わりました。

刈払機はスロットルレバー（いわゆるアクセルレバー）を操作することで、エンジンの回転数すなわち刈刃の回転数を調節して草刈り作業に使用します。草刈り作業中に作業者が転倒をしてしまった際などに、作業者がハンドルから手を離してもエンジンから刈刃への動力が遮断されずに、刈刃が回転したままの状態になってしまうと大変危険です。 このことから、生研センターで行っている農業機械の安全鑑定では、ハンドルから片手を離すことで、エンジンから刈刃への動力を遮断することができる構造を適合要件として挙げています。代表的なものとしてはトリガー式のスロットル（写真参照）があり、スロットルレバーを握っている間は刈刃が回転し、スロットルレバーから手を離すと、エンジンがアイドリング状態に戻り、エンジンから刈刃への動力が断たれます。万が一のことも考え、このような装備がなされている安全鑑定適合機を使用することをお勧めします。

参考文献：農作業安全情報センター

※現在は、固定スロットルの機体は販売されていないと思います。特に背負式はヘッドの自由度が高い反面、恐ろしいです。一方、反発式のスロットルではコントロールに慣れが必要の場合がありますので新規で調達する際は注意して下さい。欧州の機体は以前からこのタイプのみ販売です。
海外のメーカー製で固定スロットの場合は、国産のOEMでは。

農作業安全情報センター
http://www.naro.affrc.go.jp/org/brain/anzenweb/index.html

刈払機の危険事例　その1

刈払機のキックバック

概要：
　水田の畦（傾斜60度、斜面長さ1．6m）の草刈りをするため、背負型の刈払機（のこ刃）で草刈り作業を行った。1時間ほどして終わりに近づいた頃、刃が水田面に接触しキックバックして右足の薬指と小指の第2関節から切断した。

原因：
①刈払機の刈刃は反時計回りのため、刃の右側が水田にあたると反動で自分の方に刃が跳ね返ってきた。
②危険があることは知っていたので注意して作業したが、近所の人とバスで集会に行くため。予定の時間に間に合うようあせっていた。
③普段は補助ハンドルを持っているが、当日はいつもより短い所を持っていた。

刈刃チップの飛来

概要：
　水田畦畔の上を刈払機で草刈り作業中に、右手にチップソーのチップがささり、血が出た。
　傷は軽いと判断し、翌日の朝に医者へ行って、刺さったチップを取り出してもらったが、34日間の通院となった。
　顔の防護、長靴、腰からのビニールの前掛けはしていたが、手袋はしていなかった。

原因：
①草等の巻き付きがあるので、飛散物防護カバーの位置を刈刃から離していた。
②刈刃を研いで大切に使っているが、一部チップが欠損していた。
③手の防護をしていなかった。

参考文献：農作業安全情報センターより

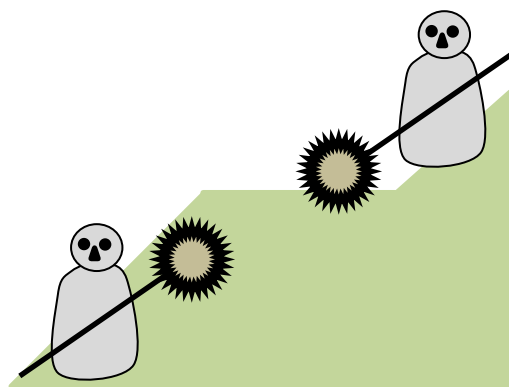
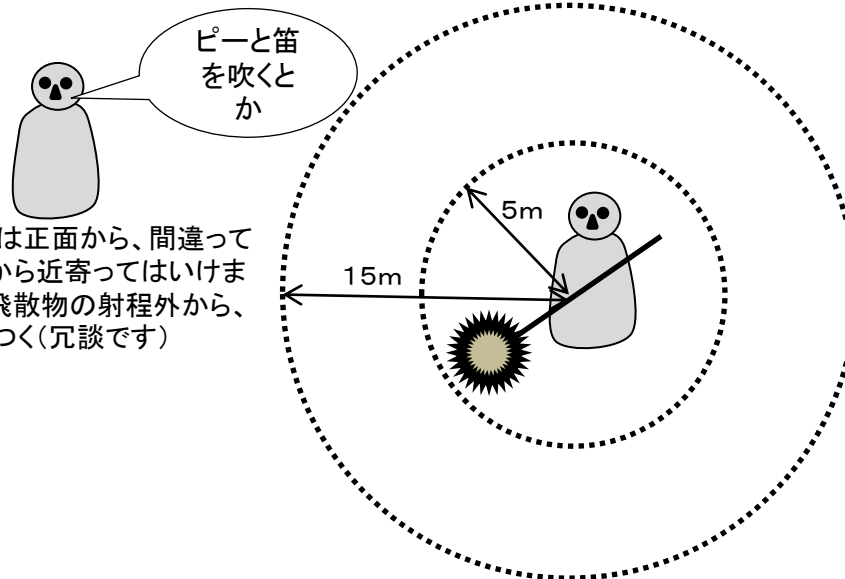
刈払機の危険事例　その2

刈刃による切れ

概要:
　刈払機で作業中、エンジンを切って巻き付いた草を取ろうと引っ張った時、刃が回転して左手中指に刺さった。

原因:
①草が巻き付くことは頻繁にあるため、手間を省こうと刈払機を地面に下ろさないで、手元で草を取った。

参考文献:農作業安全情報センターより

刈払作業時の一般的注意事項

・斜面の作業は、足場の確保
・上下で仕事をしない(上から人が落ちてくる?)
・下から上を刈る。

・5m以内は絶対に入らない(刃物が飛んでくる)
・作業間隔は15mを確保(飛散物の可能性大)

竹の伐採作業について（再確認）

１．　２～３人でチームを作る

ひとり一人勝手に作業するのでなく2～３人単位でチームを作り、チームで作業に当たります。切る人と周囲に気を配る人、幹を倒したい方に押して倒す方向を調整する、疲れたら交代するなどチームプレーで行います。また、切り倒す作業が最も達成感のある作業です。特定の人がこの作業を独占しないで交代して実施するようにします。当会でも、チェンソーを使う人が少ないので希望者には交代で練習することも良いかと思います。三輪さんから頂いたチェンソーを活用することも良いかも。

2．斜面ならば下の方から伐採を始める

竹林は傾斜地が多いと思います。竹は傾斜地の下の方に向かって曲がっていることが多く、重心が傾斜地の下側の方に偏っているので、下側に向かって倒れやすくなっています。**お寺の山は、粘土質なので雨が降った後は大変に滑りやすいので注意して下さい。**

３．チームとチームの作業場所を少し離す

予期せぬ方向に倒れることもあり、接近して作業をしない方が安全です。たとえ竹でも、頭に直撃すると大変なことになります。腕に当たれば打撲となり、内出血する場合があります。

4．倒す方向を見定める

少し太めの竹は枝や葉の量も多く重いので、人の力で倒れる方向をコントロールすることが難しい。普通は重心の偏っている方に倒します。方向をコントロールしたい場合は、２～３名で倒したい方向に押します。（状況でロープで引く場合もあり）
倒すときは『**倒れるよ～！**』と大きな声（笛）を出して近くで作業している人に警告をします

5．一本切り倒したら始末してから次を倒す

切り倒す作業は気持ちが良く体力の消耗も少ないです。他方、枝を払い、玉切りにして運び、置き場所に整然と積む作業は地味で時間を要する作業なので嫌われる傾向があります。このため、次々と切り倒す作業が優先されます。この結果、倒した竹が重なり合い絡まって、枝払いなどの作業がやり難くなります。 これを防ぐには１本切り倒したら、枝を払い、所定の長さに玉切りをして、置き場所に運び整然と積むまでを一連の作業にします。

鋏の手入れ

剪定ばさみ等の手入れは、水砥石（300～5000番）でも、出来ますがハサミの刃先はデリケートに出来ている為に、失敗すると砥ぐ前より状態が悪くなる場合があります。

そもそも、水で砥ぐことが面倒な時が多いので、オイルストーンで（350番）で砥ぐことが多いです。定期的に研げば切れ味は問題はありません。なにより、オイルストーン自身は非常に硬い為に、砥石の平面性を保つことが容易です。相当の切れ味を求める場合は、水砥石（3000番以上）でしっかりと砥ぐ必要があります。

※刃の裏表を注意して砥いでください。安い刃物で練習すると被害が少ないかも

ナタ（鎌も同様）の手入れ

鉈の手入れは、水砥石（100～1000番）で行っています。刃の状態によりますが大よそ350番で砥いだ後に1000番で仕上げます。最近は水で砥ぐことが面倒なので、オイルストーンで（350番）で砥ぐことが多いです。定期的に研げば切れ味は問題はありません。なにより、オイルストーン自身は非常に硬い為に、砥石の平面性を保つことが容易です。相当の切れ味を求める場合は、水砥石（3000番以上）でしっかりと砥ぐ必要があります。鉈の使い方として、「叩き落として切る」ような使い方ですので、包丁のような砥ぎ方では刃こぼれします。

いずれにしても、刃物は切れる方が事故が少ないです。切れない刃物では、竹等の硬いもの（表面がつるつる）では、刃先が食い込まず、変な方向に刃先が行きますので危ないですよ。

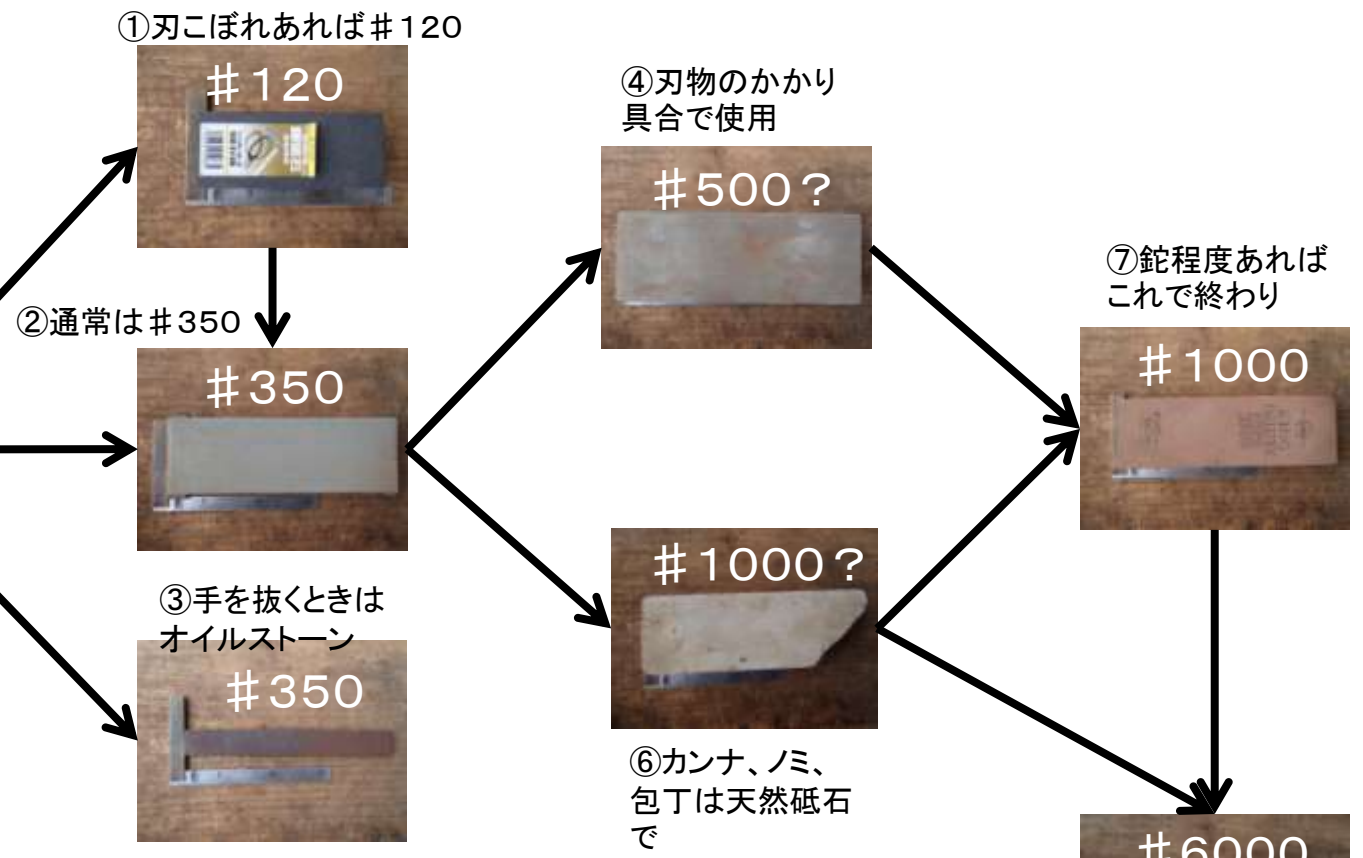
刃の断面を直線で砥ぐと、切れ味は良いが刃こぼれする確率が高い。研磨機で砥ぐとこんな感じです。

刃の断面を少し丸くして砥ぐと、刃こぼれが少ない。「ハマグリ型」と呼ばれます。ハマグリ型は剪定ばさみの刃先をイメージしてください。

※ナタ等の刃物が刃こぼれする場合は、切り方と対象物が恐ろしく硬い場合が起こりえますので注意して下さい。対象が対して固くないときに刃こぼれする場合は、切る瞬間に刃先を無意識に捩じっている可能性があります。
鉈に限らず、挟みも切る際は捩じらないようにしてください。

砥石について

今では、「刃物を自宅で砥ぐ」ということは昔に比べて少なくなったと思います。なにより、ステンレスの包丁等が多くなり砥ぐことを必要とする刃物が少ないのではないでしょうか。しかし、野良仕事で使う道具にはまだまだ砥ぐことが必要とされる刃物が多く存在します。参考までに、現在の砥ぎの工程を紹介します。

砥石は、＃120、＃350、＃1000
の三種類あれば大よそOKです。

刃物の種類により砥ぎ方を変えています。最近は、手抜きのオイルストーンで手早く終わらせていますが、定期的に水砥石で面を整えています。

最近は、鎌を使うこと自体少ないようなので、砥ぎ方を知らいない方も多いかなと勝手想像していますがしっかりした刃物はかなり長期間使うことが出来ますので、お孫さんも使えますよ。少々高めの道具を買うことをお勧めします。写真の刃物は、新しく見積もっても昭和初期と思われますが、柄の交換を行えば十分に現役です。

重機作業時の一般的注意事項

植木等の移設のための穴掘り作業、吊作業を行うときは、必ず周囲の安全を確認しましょう。油圧ショベルなどが旋回する方向に作業員がいたり、植木等の移設場所に人がいないか、必ず確認してください。

→当会でも使用していますが、意味なく機体の**旋回半径内に立ち入ることは厳禁**です。旋回半径内に入るときは、**必ずオペレータに合図(オペレータと目を合わせて)**してから入る事。騒音があるので声だけでは無理

穴掘り用の油圧ショベルには、ミニショベルが多く使われています。したがって足場が少しでも凸凹していると車体が不安定になり、転倒の危険があります。掘削は足場を平らにした上で行い、転倒防止につとめてください。

→危険と思われる場合は、近くに寄らない。機体の旋回半径外では被害は少ない。

植木等にワイヤをかけ、油圧ショベルの専用フックでの吊作業は緊急やむを得ない場所以外は、用途外使用で禁止されています。吊り作業には必ずクレーンを使用してください。その際、吊上荷重オーバーによる転倒事故を起こさないよう十分注意してください。

→吊り作業を行う際、**荷物の下には絶対に入らない**。

参考資料出典:コマツ
http://www.anahori.com/work/anzen2.html

重機は便利ですが、多くの危険を伴います。素人集団の作業ですから、危険倍増！！。重機の周りに見張りを置いて作業出来ればと思います。

刈払機等の事故は、自己責任の要素が強い場合がありますが、重機の場合は相手がいるので一層注意！！。

その他留意している点など

	チェンーンは、山中で分解できるオイル（植物性オイル）を使用。大よそ燃料に近い量を消費することを考えると、通常のオイルだとかなりの量をばらまき山の中を汚しているような・・・。ちなみに、オイルストーンで研磨する際もこれを使っていますが今のところ問題はありません。
	混合燃料のオイルは、通常50：1を純正オイルを使い作っています。理由は、カーボンの付着が少ないことと、エンジンの回転が素直に上がるからです。カーボンが付着すると、エンジン始動が難しい、馬力が出ない等の弊害が発生し、結果的にエンジンの分解清掃を考えると運用経費が安くなると判断しました。ハスクバーナの製品が良いという方もいます。 ※100：1及び25：1を指定している機体もありますので説明書を読んでから行って下さい。最悪エンジンが壊れます。 ※ガソリンスタンドで購入する場合は、信頼できるお店から購入してください。（混合率とオイルが信用できないケースもあると聞きます） ※混合油、ガソリンは必ず、消防法に適合したガソリン携行缶に入れて下さい。間違ってもペットボトル等に容器には短時間でも入れないでください。
	革手袋は、指先と手のひらが2重になっている手袋を選んで使用。2重になっていることで万が一、転倒して手をついた際に細い竹等が突き刺さることを防止。 濡れている場合は作業しないことが原則ですが、濡れていても状況により行う必要がある場合は、消防（消防団含む）で使われている手袋を使用。そもそも放水作業で使うことが前提なので、水に強い。濡れても滑りにくい。当たり前か・・・。しかし少々割高。 ※チェンソー等を多用する方は、切断防止をお勧めします。
	夏場の「蚊」対策。これが無いと、夏の作業は耐えられません。
	マムシとスズメバチ。どちらも厄介な生き物です。おそらく、相手も人間が厄介と思っていると思います。 対処方法は、「手を出さない」「いたずらしない」が原則でしょう。しかし、不幸にも気が付かず刺激を与えた場合は「噛まれる」又は「刺される」ことになります。 経験上、刈払機での作業時にも刃の先を注視していると、怪しい柄の蛇が動かず居ると「マムシ」、ハチは巣の周囲に1匹位必ず飛んでいるので見落とさないようにとなります。 しかし、普通の人が半そで、短パンで山に入ると話がややこしくなるので、看板で注意喚起を行うことが必要と思われます。 また、被害を受けた時の適切な対処方法を周知することも必要では。

２．平成25年の作業目標について

はじめに

　　シーズンが始まる前に、今年の方向性をメンバー内で確認することが本日の目的です。細か事は、常に修正を行うことになりますが、方向性は容易に変更することは難しい為に本日の勉強会となります。
　皆さん、お気づきの点等がありましたらお願い致します。

平成24年度の自己評価

（成　果）

１　計画による初期の目標は、回遊道路の半行程を完了。ほぼ目標を達成した。

２　商工会主催「田鶴浜あかりまつり2012」協賛で、イベント「チェンソーアート実演即売会」を実施。初の試みだったが、多数の観客でPR効果は抜群だった。

３　田鶴浜町花「つつじ」の植栽、「さくら」の植え込みなど好意による寄付で華やいだ公園ベースができた。

４　会員全員に作業中特段の異常や事故がなく、安全なうちに年間の活動ができた。

５　ホームページとフェースブックの立ち上げができ、PRに威力を示した。

（反　省）

１　危険回避のための注意を再三呼びかけたが効果は見られず、今後この方面の注意喚起を早急に強めていく必要がある。

２　重機の導入、特に竹チッパーのリースは予算限度があって3回しかできなかった。

３　回遊道路は道半ば。作業日数増加にさらなる工夫が必要かも知れない。

４　チェンソー及び刈り払い機の操作は不十分。指導を受ける必要性がある。

里山公園整備事業マップ（案）
（平成25年予定）
安全第一
新規遊歩道?（けもの道程度）調整中
昔の道？を再整備。酒造り使用した井戸の復元？？
タバコの火は大丈夫？
野焼きは危険ですよ
防火
井戸と巨木（杉）
井戸は相当危険な状態であることから、周辺の整備に先立ち井戸小屋を作り絶対に人間か落ちないようにする。間伐した周りに散乱している丸太を加工して囲いを作る
ゴミすて禁止
東嶺寺
長家墓所
立入禁止
周辺ゴミの撤去を行う。安心して入れない
貴重な動植物を保全しよう
椎の木の巨木下は、杭とロープで立ち入り禁止区域を作る。
→椎の木の根を保護し、山野草を守る
椎の木
墓所
遊歩道
椎の木
無断立入禁止
東嶺寺
竹林部分
・新規の伐採は原則行わない。
→例外措置として、倒れそうな竹は伐採
・筍を伸ばして適度な間隔で伐採を徹底
→昨年度は、マーキングし伸ばしている竹を何者かが伐採した。
・肥料を施して、勢いを回復させる
※一部、間引を行った箇所の竹林が非常に荒廃しているための措置。
作業範囲はこれでよいかな？。
立ち入り禁止区域は確認済みか？

平成25年の目標と問題点

【主とした目標】

シイの木広場をつくる

①シイの木周辺のガレキの撤去を行う。この時、自生する山野草に注意して広場の線引きを行う

※ガレキは、破砕機で粉砕するが、当面平坦な場所に移動させある程度乾いてから処理する。

②杭を打ち根元へ人が入る事を防ぐ

※杭は約70本。ロープ用の穴を空け、防腐剤を塗布したのちに行う

③古い井戸の養生

シイの木周辺には、昨年間伐した杉が転がっているので、適当な長さに切ったのちの井戸を囲む材料にする。シイの木周辺の掃除も兼ねる。

④整備個所の清掃作業

これまでに、伐採した竹等の処理が終わっていない箇所などが目立つので、焼却及び粉砕等を行う。

【問題点】

1　竹林の間引き伐採が過度となり、養生で1年間生育状況を見る。
　→原則的に倒れた竹等は例外として、竹の伐採は行わない。筍の伐採も、ある程度伸びたタイミングで間引きを行う。

2　回遊道路は公園予定地内未完成。残り2/3の造成に力を要する。

3　造成、整備済の箇所の清掃不行届。今後の保守作業に頭が痛い。

4　年1回はイベントで地域を持ち上げたい。何をするか?予算はあるか?　ウーム！
　→公開の話を聞くが、どのような方法があるか検討。

5　女性の参加が欲しい。（男女協働の観点から）→最近は「林業女子会」が有るらしい

最後に「本当にしつこい」ですが

今年も、安全第一で作業を行いと思いますのでよろしくお願致します。

なお、本日は主に安全に対する啓発をいうことで色々をお話し致しましたが、あくまで一般論としてお考えください。機体により整備方法等は異なりますので、機体付属の説明書にて安全な操作法等を再度ご確認下さい。不明な点は勝手に解釈を行わず、販売店及びメーカーにご確認を願います。

「安全はお金で買え」

「お金で買えるものであれば、買って損は無い安全」

基本的に山仕事を行う上ではケガは切っても切れない関係と思います。特に、動力機械を使用する時間が長時間であればあるほど発生率は高くなります。動力機械を使用しない方でも、倒木、飛散物によりケガの危険性は高くなります。

しかし、田んぼ・道路の草刈りでゴーグルは最近よく見かけますが安全ズボン等はあまり見かけません、同様に林業従事者（チェンソー作業）も装具を装着している方は少ないと思います。

動力機械の能力を考えると、普通の作業服では体を守ることは無に等しいと思われます。一方で「高価な装具を揃えてください」と言うことも出来ないので注意喚起するレベルとなります。せめて、**ヘルメットと安全靴（安全長靴）**を揃えて頂きたいと思うのですが。 仮に、真夏のクソ暑時に頭の先からつま先まで装備したら、脱水症状に陥って事故を起こしてしまうのでは本末転倒となり、装備したら絶対にケガをしない保証も出来ません（軽減は出来ると思います）。

結論は、「各自が危険性を考えて可能な限り安全を確保して作業を行って下さい」となります。
ついでに、刈払機・チェンソーが非力でも、先に安全装具を買って下さい。馬力の無さは、目立と腕前でカバーしましょう！